

レジデントカリキュラム **眼科**

概 要

人口の高齢化とともに、老後も趣味や仕事などを継続し、「いかに生活のクオリティを持続するか」、に関心が高まっている。このためには、視力の保持は重要なファクターである。高齢者の視力の保持は個人のみならず、社会全体にとっても今後の重要課題と考えられる。このことから、糖尿病網膜症など、内科と密接な関わりのある疾患や、黄斑変性症、緑内障、白内障、血管閉塞性疾患など、頻繁に見られる眼科成人病に幅広く対応できる眼科専門医の育成を目標としている。また、医師個人としての責任感、倫理観、人間性、チーム医療における協調性を養い、患者様、特に視覚障害者に対する誠意のある対応・診療をできる知識と態度を会得することを目指す。

一般目標

- 1) 眼科解剖学・生理学・病理学・眼光学・免疫学に関する基礎知識を身につける。
- 2) 各種検査（視力、視野、眼底、眼位、眼球運動、両眼視機能、瞳孔、色覚、光覚、屈折、調節、隅角、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、涙液検査、蛍光眼底造影、電気生理学的検査、画像診断など）について、その意義・適応を把握し、結果を的確に評価できる能力を習得する。
- 3) 眼底写真撮影・蛍光眼底造影検査の技術習得
- 4) 網膜光凝固術の適応の理解と技術習得
- 5) 頻度の高い眼科疾患に関して、診断と治療方針の決定ができるようにする。
- 6) 眼科救急処置に関する知識と技術を習得する。
- 7) 眼科の小手術・外来処置の技術習得
- 8) 頻度の高い疾患において病状説明と治療計画を説明できるようにする。
- 9) 白内障手術・緑内障手術・網膜剥離手術などの助手ができるようにする。
- 10) 入院患者を受け持ち、診断・治療に参加する。

個別目標

- 1) 指導医の下に外来診療の一部を担当し、治療計画を立てて、実践し治療にあたる。
- 2) 外来での小手術や、白内障手術の安全な技術を習得し、指導医の下で執刀できる。
- 3) 緑内障手術、網膜剥離手術などの一部を執刀できる。
- 4) 症例報告、臨床研究などの学会発表・論文の投稿を行う。